

[http://www](http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/)

# 国際・地域連携センター ニュースレター 〈第5号〉

〒780-8073 高知県高知市朝倉本町2丁目17-47

TEL:088-844-8555 FAX:088-844-8556

<http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/>

編集責任者: 吉用

## はじめに

9月18日(日)、室戸ジオパークが世界ジオパークに認定されました。世界ジオパークは、地球や大地の成り立ちを伝える地質や地層、地形、火山など、世界的に貴重な地質資源を守るとともに、自然環境や風土、人間や生物の営み、歴史や文化、産業とのかかわりを学び、楽しむことを目指した自然公園としての国際的な認証です。室戸市において2008年にジオパーク推進協議会が設立され、本学の吉倉副学長や岡村教授がアドバイザーとして支援しておりました。

室戸市と本学は様々な連携活動を実施しており、その結びつきは非常に緊密です。当センターも調整機関として、これらの活動推進に貢献してまいりました。

〈本学と室戸市との連携事業〉

- ・「シレストむろと」の深層水プールを利用した生活習慣病等予防・改善プログラムの実施
- ・市民健康増進に関する指導・助言
- ・リュウゼツラン活用検討
- ・アワビ等共同研究開発事業
- ・室戸市の各種計画事業に対する指導・助言

室戸地域が活気づくことで本学の教育・研究にも良い影響が得られます。地域との共存共栄の道を築くため、地域との連携活動にご協力いただければ幸甚に存じます。

## 目次

p1 はじめに

p2 地域連携・再生部門

- Topic1. 地域再生のカギは人材育成にあり！
- Topic2. 十勝と土佐の食品開発人材交流

p3 産学官連携部門

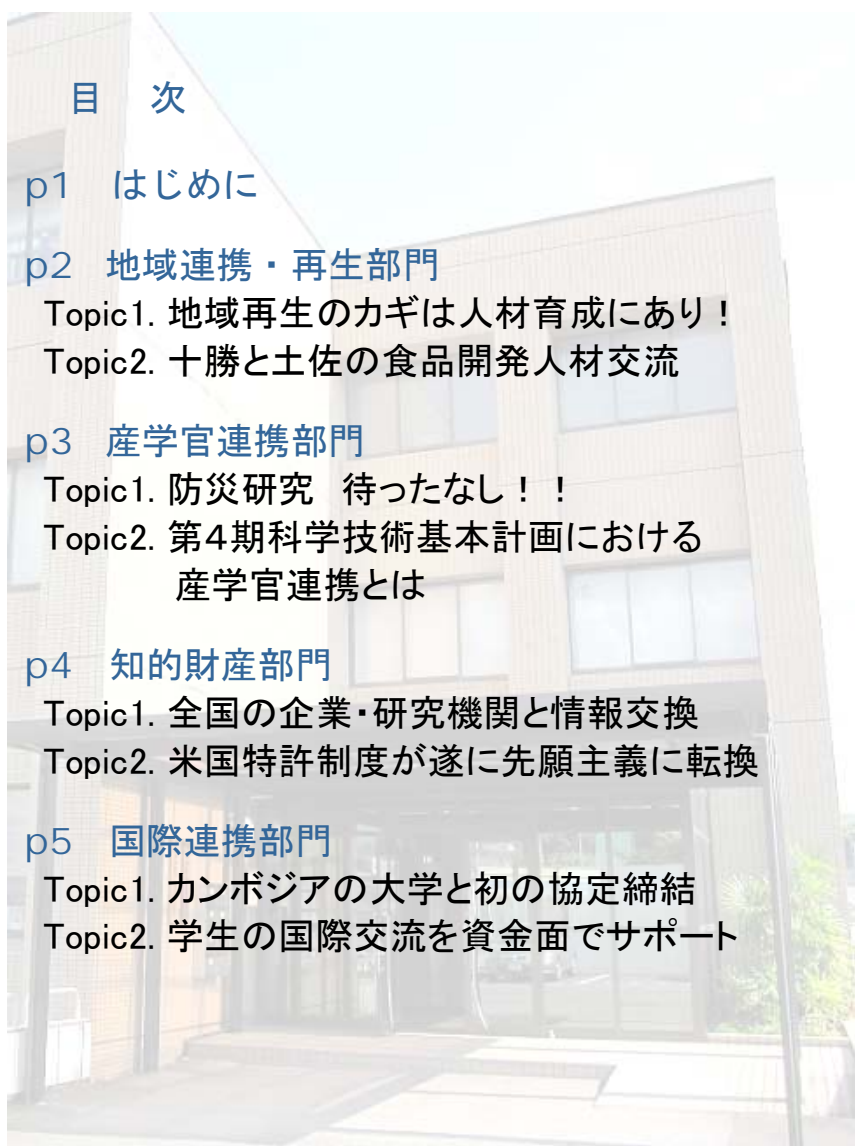
- Topic1. 防災研究 待ったなし！！
- Topic2. 第4期科学技術基本計画における産学官連携とは

p4 知的財産部門

- Topic1. 全国の企業・研究機関と情報交換
- Topic2. 米国特許制度が遂に先願主義に転換

p5 国際連携部門

- Topic1. カンボジアの大学と初の協定締結
- Topic2. 学生の国際交流を資金面でサポート



## Topic 1. 地域再生のカギは人材育成にあり！ ～地域再生人材大学サミット in 能登～

9月1日(木)～3日(土)、“地域再生人材大学サミット in 能登”が開催されました。文部科学省の補助金である科学技術振興調整費の中で「地域再生人材創出拠点の形成」に採択された全国の大学・自治体が集まる大規模な会議です。高知大学は平成20年度に「土佐フードビジネスクリエーター人材創出(土佐 FBC)」が採択されました。本事業は人材の創出という長期的な取り組みを要するものであり、本サミットにおいて各地域とも5年間の補助金終了後、いかにして事業を継続するかが最大の焦点となりました。高知大学も継続を目指し、関連自治体や企業等と共に綿密に打ち合わせを行っています。昨年の高知大学の中間評価においては、総合評価「S」、とりわけ、継続性についても「S」という高い評価を得ており、今後の展開が期待されていると同時に、全国が高知大学の取り組みに注目しています。



パネル討論「ニッポンの転機！大学は地域再生、その人材養成にどうかかわればいいのか」



JST 清水了典プログラムオフィサーによる全体状況報告にて、土佐 FBC が良例として紹介されました

## Topic 2. 十勝と土佐の食品開発人材交流 ～帯広畜産大学が土佐 FBC を視察～

9月16日(金)、帯広畜産大学が土佐 FBC の視察のために来学されました(教官・事務5名、受講生3名)。帯広畜産大学は「十勝アグリバイオ産業創出のための人材育成」をテーマに平成19年度科学技術振興調整費に採択されており、今後の活動に向けて意見交換を行いました。その後、土佐 FBC 修了生と合同で成果発表会を行い、帯広畜産大学からは「牛未利用資源の有効活用」、「田舎のチーズ工房に人が集うモデル」、「北海道 HACCP 導入」等、北海道ならではの取り組みが発表されました。農産物の生産、加工からマーケティングまで包括的な人材育成を目指す土佐 FBC とも通じる点が多々あり、FBC 受講生との活発な議論が繰り広げられました。



高知大学 中島理事による歓迎の挨拶



帯広畜産大学 倉持教授による挨拶

## Topic 1. 防災研究 待ったなし！！

## ～産学官連携産業創出研究推進事業の一次募集結果～

高知県は、6月10日～7月29日に産学官連携産業創出研究推進事業の一次募集を行いました。本事業は、概ね3年程度の基礎研究段階を経て事業化研究(製品化の研究)に移行するなど、新たな研究開発要素を持ち、本県の産業振興にもつながる中期的研究開発事業です。一次募集審査の結果、高知大学からは下記のテーマが採択されました。

研究テーマ	研究開発チーム
南海地震による津波被害軽減と浸水継続時間を短縮する対策技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高知大学自然科学系農学部門 教授 大年邦雄(代表研究者)</li> <li>准教授 原 忠</li> <li>・株式会社技研製作所</li> </ul>

※全体で13件の提案があり、うち2件を採択

※13件の内訳(県内3高等教育機関、県内企業・組合等16社、県外企業2社、公設試験場等、述べ24団体)

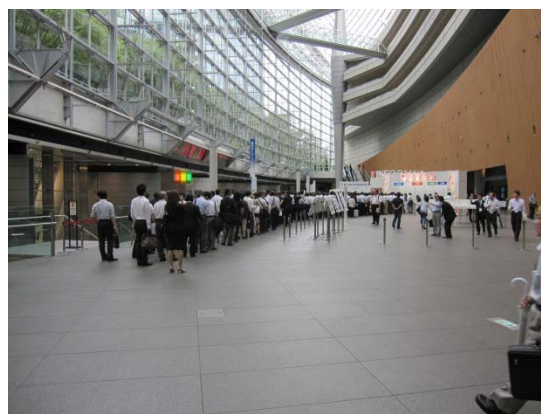
詳しくは以下 HP をご覧下さい。

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/151901/1ji-saitaku.html>

Topic 2. 第4期科学技術基本計画における産学官連携とは  
～第10回産学官連携推進会議の開催～

9月21日から22日の2日間、東京国際フォーラムにて「第10回産学官連携推進会議」が開催されました。今回の産学官連携推進会議は、未曾有の大災害となった東日本大震災の発生を受けて、「我が国の復興・再生に向けた産学連携の促進」をメインテーマに開催されました。

この度策定された「第4期の科学技術基本計画」では、最優先課題として取り組む「震災から復興・再生の実現」、環境・エネルギーを対象とする「グリーンイノベーションの推進」、医療・介護・健康を対象とする「ライフイノベーションの推進」を主要な柱として位置づけ、科学技術イノベーション政策を推進することとしていることから、本会議でも、この新しい基本計画や関連する課題について講演や分科会を行い、産学官連携の更なる推進について議論が行われました。



非常に多くの聴衆が集まり、今後の産学官連携に対する注目度の高さが窺えました

## Topic 1. 全国の企業・研究機関と情報交換 ～イノベーション・ジャパン2011 大盛況に終了～

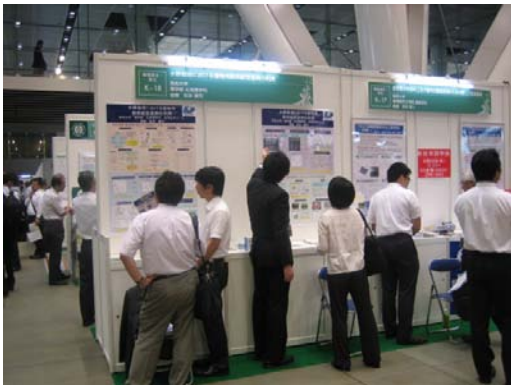
9月21日から22日の間、東京国際フォーラムにおいて、産業界の技術ニーズと大学の研究シーズを結び付ける産学連携の国内最大マッチングイベントである「イノベーション・ジャパン2011－大学見本市－」が、独立行政法人科学技術振興機構(JST)と独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)主催で開催されました。21日は、関東地域を台風15号が襲来した悪天候にもかかわらず、2日間で2万8千人の来場者があり、各企業、各大学、研究機関等の研究者によるプレゼンテーションやポスター展示を通じて最新の研究成果の発表等が活発に行われました。

### 本学からの発表者

理学部 応用理学科 助教 松本健司先生

研究課題 「水耕栽培における植物用鉄供給促進剤の利用」

多数の企業から質問等を受け、当センターとしても今後の事業化に向けて全力でサポートしてまいります。



展示ブースの様子



松本先生のプレゼンによる研究内容説明

## Topic 2. 米国特許制度が遂に先願主義に転換 ～特許制度 進む国際統一～

今回は世界の特許を取り巻く環境に関する重大ニュースをお知らせします。

オバマ米大統領は9月16日(現地時間)、米特許改革法案「America Invents Act」に署名し、約半世紀ぶりに米国特許制度が大幅に刷新される特許改革法が成立しました。オバマ大統領は署名にあたり「長年に渡り必要とされていたこの改革により、特許プロセスが迅速に行われることになる。発明家や起業家が新規の発明を迅速に事業に持ち込むことが可能となり、これらの発明が市場に早く提供できることで雇用も創出できる」と、雇用創出の為の重要法案であることを述べています。

今回の改正ポイントはいくつかありますが、最も大きな点は米国の先発明主義(first-to-invent)が先願主義(first-inventor-to-file)に移行したことです。日本を含め世界中の国々は先願主義を採用していますが、これまで米国は先発明主義を採用していました。先発明主義では発明した時点を審査するのに時間がかかるため、大量のバックログ(現在約70万件)が発生するだけでなく、審査中は申請内容が公開されないため、技術が普及してから特許が承認される(サブマリン特許)ケースもあり、訴訟にもつながっています。今回、先願主義へ移行して審査プロセスも見直すことで、現在申請から承認まで約3年間かかっていたのが約1年に短縮されるということです。

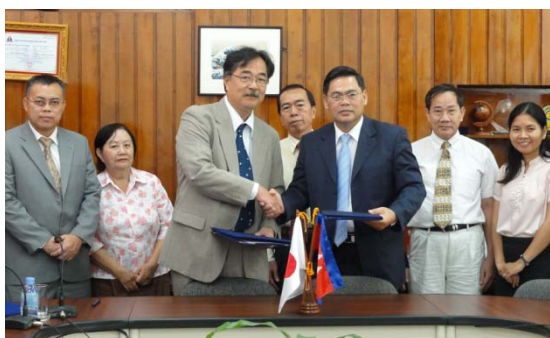
なお、適用は2013年春になる見込みです。

## Topic 1. カンボジアの大学と初の協定締結 ～カンボジア工科大学と学術・学生交流協定を締結～

平成23年9月9日、カンボジア工科大学において、高知大学とカンボジア工科大学との間の学術交流協定書及び学生交流に関する覚書の調印式が行われました。

同大学は1964年に創立されたカンボジア王国で唯一の理工系大学であり、食品及び化学工学、土木工学、エネルギー及び電子工学、情報及び通信工学、生産及び機械工学、農業工学の6学部を有しています。

両大学間では既に「カンボジア王国におけるヒ素汚染地下水の浄化に関する共同研究」を開始しており、環境工学分野の国際セミナー開催や研究者・学生の派遣が計画されています。また、本学への食品工学分野の留学生受け入れも予定されており、今後、様々な領域での交流活動が期待されています。



調印式の様子  
(本学から桜井理事が訪問し、カンボジア工科大学  
学長と調印式を行いました)

## Topic 2. 学生の国際交流を資金面でサポート ～高知大学国際交流基金助成決定通知書交付式を挙行～

平成23年9月26日（月）、事務局5F会議室において高知大学国際交流基金助成決定通知書交付式が挙行されました。

本年度の国際交流基金助成事業では外国人留学生への奨学事業、外国へ留学する学生への奨学事業及び大学院生の研究発表を目的とする海外派遣事業の3事業に28名が採択されました。相良学長から助成決定通知書がそれぞれの学生に手渡され、有意義な成果をあげていただきたいとの挨拶がありました。



助成決定通知交付式



集合写真